

# 地域特性分析からの重点課題の整理

現計画	統計データ及び事業評価からの現状	アンケート調査からの現状	作業部会からの意見	重点課題
<p><b>基本理念</b></p> <p>安心できる温かい福祉のまちをつくります</p> <p>高齢者が住みなれたまちで、健康で、生きがいをもって、いつまでも安心して尊厳を持ち、自立した暮らしができる社会を目指します</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の高齢化率（平成 29 年）の推移は 32.5%となっており、東濃 5 市の中でも恵那市に次いで高い、また、高齢者人口のうち、後期高齢者の占める割合が 54.1%となっており、平成 37 年には 60.9%になることが推計されている</li> <li>運動習慣の確立のため関係機関と連携し取り組みを進める必要がある</li> <li>口腔機能低下予防と歯周病予防の知識を普及啓発するための取り組みを推進する必要がある</li> <li>生活機能低下などにより要介護状態になる恐れの高い方の把握が難しい</li> <li>虚弱な高齢者の世帯が増加する傾向があるため、高齢者本人および関係者から必要なケースの対応ができるようケース会議の開催を周知する必要がある</li> <li>毎年介護サポーター養成講座を開催し、地域での取り組みを支援しているが、住民主体の活動につながりにくい</li> <li>互いに支え合うための地域の理解を促していくとともに、地域で支える仕組みづくりの継続が必要</li> <li>認知症サポーター養成講座では学校教育課と連携し、小中学校への啓発の促進が必要</li> <li>高齢者虐待の背景の複雑化や虐待件数の増加に対応できるよう、関係機関との連携や役割分担が必要・多様な状況に置かれより困難なケースも増えておりケアマネの相談支援業務のスキルアップもしていく必要がある</li> <li>多職種合同研修会では事例をもとに地域の課題について討議することができたケアマネ以外の出席者も多くなっているが、今後より多くの出席者を得ることにより地域づくりについて検討していく必要がある</li> <li>介護相談員が利用者から聞き取った情報を関連部署に伝え、サービスに繋げていく必要がある</li> <li>地域密着型サービスを地域包括ケアシステムの中核的な役割を担う重要なサービスとして位置づけ、今後高まる需要に対応するため、計画的に整備を進めていく必要がある</li> <li>サービスを必要とする方が必要な時に利用できるよう、ホームページ、介護保険利用ガイドや出前講座で、利用促進を図ることが必要</li> <li>介護支援専門員調査では、予防給付で「通所リハビリテーション」が、介護給付で「訪問介護」の供給が不足していると感じており、これらのサービスの充実が必要</li> <li>要介護（要支援）認定者の増加等による介護保険料の高騰も考えられるため、引き続き、介護給付費等の適正化に努める必要がある</li> <li>介護給付データや介護認定調査で収集したデータを分析し、不適切な給付事例について抽出し、給付の必要性の確認が必要</li> <li>独居や高齢者世帯の増加にあわせ、生活支援サービスのニーズも高くなるため新たな生活支援サービスの検討・実施が課題となっている</li> <li>生活支援コーディネーターの役割周知と地域との関係作りを更に推進する必要がある</li> <li>協議体の参加機関と生活支援コーディネーターとの連携を更に推進し協力体制を構築する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療・在宅介護について、「容態急変時や必要時の入院体制」が求められている（在宅問 8）</li> <li>健康づくり活動や趣味等のグループ活動の参加者として参加したい人は 7 割と高いニーズとなっている（一般問 43）</li> <li>介護予防事業への参加している状況は低い（一般問 67）</li> <li>ニーズについても、「足腰を鍛えるような運動機能向上教室」が高い（一般問 68）</li> <li>介護サービスを利用していないのは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が高く、保険として認定を受けている可能性がある（在宅未利用問 20）</li> <li>在宅生活に必要な支援・サービスとして、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー）」が求められている（在宅問 22）</li> <li>近隣（近所）との関係について現状も付き合いがないし、今後も望まない人が 1 割程度いる（在宅問 6、問 7）</li> <li>家族介護者が感じる不安に、認知症状態への対応が挙げられている（在宅問 30）</li> <li>家族介護者の就労の有無は半々、就労のある方のフルタイム・パートの区分についても半々（在宅問 31）</li> <li>労働時間の調整をしながら家族介護をしている人が多い（在宅問 31-1）</li> <li>介護休業等の充実や制度を利用しやすい職場づくり、労働時間の柔軟な選択が求められている（在宅問 31-2）</li> <li>介護保険サービスと介護保険料の負担について、「サービスは最低限でもよいから、保険料はなるべき安い方がよい」が最も高く費用面での負担を大きいことがうかがわれる（一般問 25）</li> <li>家族介護者が感じる不安に感じることで、「健康で自立した生活を送ることができなくなる」が高くなっている（在宅問 34）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開業医の往診が在宅介護には影響が大きい</li> <li>退院後の介護についてはケアマネが非常に大変ある程度連携はとるが、情報が遅く手続きが遅れる</li> <li>在宅で看取りたいと言われた時、見てくれる医師の有り方、医療との連携が必要</li> <li>1つのデータを使って情報を共有するシステムはあるが広がっていない、入院していた情報を介護側に家族が伝えるケースはあまりない</li> <li>介護予防サポーター、福祉推進員、民生委員、健康推進員等との連携が取れていない</li> <li>より健康を地域に広めていくのが理想、近所付き合いが大事</li> <li>重症化予防として、独居でバス停までも距離がある人は、受診を中断しまう</li> <li>巡回バスがあるが、ドアツードアではない、乗る人も少ない、制度上タクシーを使うのが原則</li> <li>介護を要しない人の足の確保については、今後の課題</li> <li>外出支援の不足あり、通いの場、気軽にちょっと出かけられる場がない</li> <li>中津川市はエリアが広い、足の問題が大きい、（アンケート結果）緊急時の対応がきちんとなされているか</li> <li>男性が役割を果たせる場を、ポイント制度の導入の検討はどうか</li> <li>ゾーンごとの高齢者の人口とデイサービスの数、箇所と人口の比を見て施設整備の判断をする</li> <li>ヘルパー、訪問入浴は生活を支え、病気等のことは訪問看護が支えるということで良いのではないか</li> <li>看取りまでの支援が必要な場合、訪問リハ、訪問看護は必須、どんなサービスがいるのか検討が必要</li> </ul>	<p><b>課題 1 地域包括ケアシステムの深化・推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今後高齢者の更なる増加が見込まれる中で、地域包括支援センターの機能強化とともに、地域の各団体やさまざまな専門職が連携した高齢者が地域で安心して暮らせる体制づくりが求められます</li> <li>○地域ケア会議を活用し、個々の事例をもとに、地域の課題、取り組みへとつなげるために地域ケア会議のより一層の充実が求められます</li> <li>○家での看取りについて、見てくれる医師の有り方、医療との連携を検討していくことが必要です</li> </ul> <hr/> <p><b>課題 2 健康づくりを核とした高齢者の生きがいと介護予防の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ライフステージに応じた、健康づくりができるようにするため、また病気の早期発見・早期治療につなげるため、定期的な健康診査の受診や各種がん検診の受診の向上に向けた取り組みを継続・強化する必要があります</li> <li>○高齢者が培ってきた経験や能力を活かしていくため、今後も、シルバー人材センターの機能充実や高齢者の継続雇用、就労促進の支援などが引き続き求められます</li> <li>○「元気高齢者」を増やすよう、地域のネットワークとの連携の強化や健康づくり事業体制の強化が課題です</li> </ul> <hr/> <p><b>課題 3 認知症予防対策・認知症高齢者施策の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート調査結果によると家族介護者が感じる不安に、認知症への対応が挙げられていることから、認知症予防の正しい知識の普及啓発や十分な環境の整備（相談体制、家族支援など）が求められます</li> <li>○認知症高齢者の増加が予測される中、早期発見・早期治療につなげるための医療との連携も含めた、認知症高齢者を支える地域のネットワークの強化が求められます</li> </ul> <hr/> <p><b>課題 4 一人ひとりにあった介護サービスの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サービスを必要とする方が必要な時に利用できるよう、ホームページ、介護保険利用ガイドや出前講座で、利用促進を図ることが必要です</li> <li>○要介護（要支援）認定者等の増加等による介護保険料の高騰も今後考えられるため、引き続き、介護給付費等の適正化に努める必要があります</li> <li>○地域密着型サービスを地域包括ケアシステムの中核的な役割を担う重要なサービスとして位置づけ、今後高まる需要に対応するため、計画的に整備を進めていく必要があります</li> </ul> <hr/> <p><b>課題 5 在宅支援の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の外出を支援することは、高齢者の自立した生活を支援することにつながるため、高齢者が外出するための支援が必要で</li> <li>○高齢化の進展による在宅要介護者の増加に伴い、介護者の精神的、身体的、経済的な負担を軽減するため、支援の充実が求められます</li> <li>○今後も高齢者独居世帯や高齢者のみ世帯の増加が予測されている中、地域住民による見守り活動などを支援し、高齢者が安心・安全に暮らせるようなインフォーマルサービスの充実が必要です</li> </ul>
<p><b>計画の骨子</b></p> <p>骨子① 健康づくりを核とした高齢者の生きがいと介護予防の推進</p> <p>骨子② 在宅医療の充実と医療と介護の連携強化</p> <p>骨子③ 認知症予防対策・認知症高齢者施策の充実</p> <p>骨子④ 一人ひとりにあった介護サービスの充実</p> <p>骨子⑤ 在宅支援の充実</p>				